

1 学校として目指す授業

一人一人の生徒の目線に立ち、主体的・対話的で深い学びを行い多様な学びを広げる授業
--

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校 3 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
・国数英の全教科の正答率に置いて、全国平均、都平均を上回っている。特に数学においては第 1 四分位の数値が全国の第 2 四分位の数値と等しく、本校の数学の基礎学力の高さがうかがえる。	・学校での勉強について保護者と共有する生徒が非常に高く、学習についての意識が高い。 ・学校での悩みについても保護者と共有する生徒が全国平均に比べて多い。 ・向社会性についての質問（人が困っているときは進んで助けていますかなど）については全国平均よりも低い。また、将来の夢や目標に関しても全国平均よりも低い。学習に取り組む中で視野が広がり、自身の課題意識が明確になったとも考えられる。
・英語や国語と比べて数学の学習活動への取り組みや、意識はやや高い数値が出ている。	

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析

○授業内の理解に関しては 5 教科（国語・社会・数学・理科・英語）でおよそ 8 割の生徒は分かると回答している一方で、自己評価として得意と感じている生徒は 6 割程度になっている。
・テストで間違えた問題に対して、なぜ間違えたのかを考えているのは 7 割を超えている。
・習熟度別指導による授業に対して肯定的に捉えている割合が 9 割程度である。
・他人に自分の考えを説明したり、わからない時にあまり質問や相談をしなかった生徒の割合が 3 割程度であった。
・教科書を読むなどして、授業でこれから学習することの見通しをもつようにしている、ということが他の項目に比べて低いこと分かる。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・第 1 回生徒アンケートから 「タブレット端末を活用しながら、自分のペースで学んだり、友達と意見を出し合ったりして学習に取り組んでいる。」という質問の結果 そう思う 48.2% どちらかといえばそう思う 42.1% ことが分かった。引き続き効果的にタブレット端末を扱う。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

・学習した内容を日常生活や他教科の学習と関連付けて考える力を高めることが課題である。
・自分の考えを根拠を明確にして説明したり、相手に分かりやすく伝えたりする力を伸ばすことが課題である。
・課題解決に向けて、情報を整理・分析し、適切に活用する力を身に付けることが課題である。
・主体的に学習計画を立て、見通しをもって学習に取り組む姿勢を育てることが課題である。
・一つの考えだけでなく、多面的・多角的な視点から物事を捉える力を育成することが課題である。

4 学校全体の授業改善の視点

習得した知識を活用して自分の考えを表現したり、課題を解決したりする方法を考える場面を設けることが必要である。生徒から多様な考えが生まれるような発問を工夫し、他者の意見を理解しながら新たな気付きや理解を得られる機会を充実させていく。また、ICT機器を積極的に活用し、生徒が自ら目標を設定して取り組める課題を設定することで、個別最適な学びを推進していく。
さらに、学習を通して身に付けた知識や考えを、ICTを用いて整理し、自ら考えて発信する活動を一層充実させたい。自分の意見を相手に分かりやすく伝える経験を重ねることで、思考力・判断力・表現力を高めるとともに、他者の意見から学び、自らの考えを深める力を育成していく。対話や協働学習を工夫しながら、主体的・対話的で深い学びの実現を各教科で一層推進し、教科横断的な学習や地域とのつながりを生かした学びを通して、地域に学び、地域に貢献できる人材の育成を目指していく。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	・授業のねらいを明確にし、生徒の意欲が高まる身近な言語活動を設定し、適切に評価する。 ・知識技能を身に付けさせてから、思考力判断力表現力等を適切に評価する。		・GIGA端末を活用して、個別最適な学習に向けて取り組み。他者の意見を聞き、新たな理解を得られる機会を設定する。		・基礎的な学習内容の定着を図るため、授業内で反復練習をする時間を設ける。また、学習した内容の理解度を深めるため、互いに教え合う時間も確保する。		・実験・観察における探究活動を通して課題を解決する方法を思案させる。班活動を通して、他者の意見から学び、自分の意見を深める活動を設定する。		・基礎的な学習内容の充実を図るため反復学習を行う。また、授業の目標を明示し、振り返りを行うことで達成感を得られる工夫をする。		・参考作品やICT機器を活用して、基本的な技法や道具の使い方について理解して身に付けられるように工夫する。		・ICT機器を利用して、自分たちの動きを客観的に観察させる。そして課題を明確にできるようさせて、解決するための手だてを提示していく。		・生活の課題を主体的に考え、課題が発見できるまでの基本的な力を育成する。学習を通して身に付けた知識や考えをICTを用いて整理し、協働学習を通して自分の意見や考えを共有する場面を設け、課題解決の多様な方法が工夫できるようにしていく。		・言語活動等において「目的・場面・状況」を意識し主体的な取組ができるよう、目標設定を明確にする。また、その課題解決のための手立てや方法を例示し、生徒が自ら適切なものを選ぶような機会を設定する。		・教科書を基盤としたに「考え議論する道徳」を意識した発問の設定を行い、自らの考えを育む。	
2 学年	・文法、物語文、説明文など授業の時間で学ぶべき内容を分けて学ぶべきことを明確にしている。		・GIGA端末を活用して、習得した知識を他者と共有したり、表現したりする課題を意図的に設定する。		・GIGA端末を積極的に活用し、見てわかる授業を実践する。学習した内容や、既習の内容を互いに確認したり、表現したりする時間を設定し、各単元のつながりを意識できるようにする。		・実験・観察における探究活動を通して課題を解決する方法を思案させる。既習事項を整理し、実験から得られた自らの考えを話し合う中で、気付きを他者と共有していく。		・1年生で学んだ基礎的な内容を生かし、自らの思いをもって表現の工夫ができるようにパート練習やペアワークでの話し合いの時間を設定する。		・各単元ごとに目標を明確にして振り返りを行うことで、見通しを持って計画的に作品を制作できるように工夫する。		・ICT機器を利用して、自分たちの動きを客観的に観察させる。そして課題を明確し、自分たちで改善方法を考えさせ、主体的に課題解決学習に取り組ませていく。		・「生活の課題と実践」において課題を見つけ実践するための計画を立案する段階からICT機器の活用を積極的に取り入れ、主体的に取り組めるようにする。同時に情報リテラシーをもってその真偽を確認することの必要性を身に付けさせる。		・「目的・場面・状況」を明確にした言語活動において、生徒が自分に適した目標や方法を選ぶようにすることで、個に応じた支援を行う。段階的に課題に取り組ませることでまとまった量の英語を「読む・書く・話す」力を育成する。		・生徒同士が考えを共有する活動を設定し、自分の意見を相手に分かりやすく伝える活動を通して、他者の意見から学び、自らの考えを深める力を育成していく	
3 学年	・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして自分の考えを形成し、他者との交流を通して考えを深める言語活動を設定する。 ・読み手に自分の考えや気持ちが見え、交流で得た意見を基に、構成や表現を見直しして推敲する力を育成する。		・授業で学んだ社会的な見方・考え方を生かして、自ら設定した課題に取り組むことができるようにする。		・生徒同士が自分の考えを共有し、多面的に考えたり、考えを深めたりする活動を設定する。 ・単元や小単元ごとに学習を振り返り、自己の課題を見つけて調整したり、学習の見通しをもって計画を立てたりできるようにする。		・実験観察を行ったのちに、ICT機器を用いながら、自分の言葉で考えを整理する。また、自分の考えを話し合い他者の考えを取り入れたり比較検討したりする中で、多角的な考え方、物の見方を身に付ける。		・ICT機器の活用をし、自らの思いや意図をもって表現活動ができるような工夫をする。複数の領域や分野の活動を関連させ、学校行事との結びつきも考え、表現力を身に付ける。		・素材の特性に合った技法や表現方法を工夫するために、作品を鑑賞し合うことで発想を高められるようにする。		・ICT機器を利用して、自分たちの動きを客観的に観察させる。そして課題を明確し、主体的に課題を解決することができる工夫をさせる。また、他者にも自分の意見が言えるようにし、作戦などを立てより高いレベルで競技をする。		・GIGA端末を効果的に活用し、個別の問題発見・課題設定ができるような資料の充実を図る。また、3年間で学んだ知識・技能を教科横断的に生かすことができるように促す。		・生徒が主体的に取り組むための「目的・場面・状況」を設定した単元目標の設定と、それに向けたスモールステップの設定をし、何に向かって今どのような段階を進めているのかをメタ認知しながら学習を進めていけるようにする。		・議論する道徳を目指し、主発問は正解のない発問を問うようにする。他者の意見を聞いて考えが深まるようにする。	